

## イネ縞葉枯病(ヒメトビウンカ媒介)の防除を実施しましょう！

平成30年5月10～23日に、ヒメトビウンカ第一世代幼虫を麦類ほ場から採集し、イネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率を調査した結果、県平均が6.7%と昨年並みに高い値であり、特に県中南部では10%を超える地点が複数確認されました(表1)。一方、ヒメトビウンカ第一世代幼虫の麦類ほ場での生息密度は、県平均の平年比が28.3%と低い状況でした(表2)。これは、ヒメトビウンカ越冬世代幼虫の密度が低かったこと(昨年11月:12.0頭/10m<sup>2</sup>(県平均)、平年比18.7%、詳細は[平成29年度植物防疫ニュース\(速報No.12\)](#)を参照)、冬期間の気温が平年より低かったこと等による越冬数の減少が原因と考えられます。現在、ヒメトビウンカ幼虫の発生は少ない状況ですが、今後発生が増加した場合は、イネ縞葉枯病の発病が懸念されます。本病の発生拡大を防ぐためにも、ヒメトビウンカの適切な防除を実施しましょう。

表1 ヒメトビウンカ第一世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率(%) (単位:%)

地点名		年度	H28 2016	H29 2017	H30 2018
県北部	大田原市親園		4.2	4.2	2.1
	大田原市蛭畑		5.2	0.0	3.1
	さくら市松山新田		6.3	3.1	6.3
	高根沢町花岡		1.0	2.1	2.1
県中部	真岡市青田		15.6	10.4	15.6
	宇都宮市横山町		7.3	6.3	5.2
	宇都宮市雀宮		8.3	6.3	10.4
	上三川町上三川		6.3	6.3	12.5
	鹿沼市酒野谷		4.2	3.1	7.3
県南部	下野市小金井		11.5	4.2	4.2
	下野市絹板		11.5	11.5	21.9
	小山市小葉		4.2	11.5	5.2
	小山市石ノ上		11.5	13.5	10.4
	壬生町助谷		4.2	8.3	3.1
	栃木市惣社町		3.1	2.1	3.1
	栃木市大平町真弓		9.4	9.4	2.1
	栃木市藤岡町富吉		7.3	2.1	3.1
	佐野市堀米町		3.1	8.3	8.3
	足利市上渋垂町		5.2	6.3	1.0
県北部平均			4.2	2.3	3.4
県中部平均			8.3	6.5	10.2
県南部平均			7.1	7.7	6.3
県平均			6.8	6.3	6.7



ゆうれい症状



出すくみ

写真 イネ縞葉枯病の病徴



写真左 ヒメトビウンカ雌成虫



右 ヒメトビウンカ幼虫

注:検定サンプルは、平成30(2018)年5月10～23日に麦類ほ場から採集したヒメトビウンカ第一世代幼虫  
検定方法: DAS-ELISA法 検定数: 96頭/1地点

表2 ヒメトビウンカ(第一世代)の麦類ほ場での生息密度(頭/10m<sup>2</sup>)

	幼虫					成虫				
	H28 2016	H29 2017	H30 2018	平年比 (%)	前年比 (%)	H28 2016	H29 2017	H30 2018	平年比 (%)	前年比 (%)
県北部平均	201.0	357.0	85.5	38.1	23.9	5.3	0.0	0.0	0.0	—
県中部平均	148.2	44.4	34.2	19.8	77.0	1.2	0.0	3.0	61.9	—
県南部平均	332.4	237.9	93.6	28.4	39.3	7.5	2.7	0.6	6.0	22.2
県平均	256.3	212.1	76.3	28.3	36.0	5.4	1.4	1.1	14.9	77.8

平成30(2018)年5月10～23日調査

平年比は平成26(2014)年～平成29(2017)年の4カ年平均を平年値とし算出した

防除対策

(1) 移植前の対策：普通植栽培

普通植栽培ではチョウ目害虫の被害も懸念されるため、ウンカ類・チョウ目害虫の両方に登録のある箱施用剤を使用する（表3）。

表3 稲（箱育苗）のウンカ類・チョウ目害虫に登録のある主な薬剤  
（平成30(2018)年5月16日現在）

農薬名	希釈倍数 又は使用量	使用時期	本剤の 使用回数	成分	農薬の系統	RAC コード
<b>●殺虫剤</b>						
ワンリードSP箱粒剤 〈ウンカ類, イネトムシ, ニカメイチュウ, フタオビコヤカ, コブノメイカ〉	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り50g	は種前	1回	クロチアニジン	ネオニコチノイド	I : 4A
		は種時(覆土前)～移植当日		スピネトラム	スピノシン	I : 5
フェルテラチェス箱粒剤 〈ウンカ類, ニカメイチュウ, コブノメイカ〉 ※フタオビコヤカ, イネトムシ	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り50g	は種時(覆土前)～移植当日	1回	ピメトロジン	ピリジニアゾメチン	I : 9(B)
		※フタオビコヤカ, イネトムシは移植3日前～移植当日		クロラントラニリプロール	ジアミド	I : 28
<b>●殺虫殺菌剤</b>						
ルーチンアドスピノ箱粒剤 〈ウンカ類, イネトムシ, フタオビコヤカ, ニカメイチュウ, コブノメイカ〉	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り50g	は種前	1回	イミダクロプリド	ネオニコチノイド	I : 4A
		は種時(覆土前)～移植当日		スピノサド	スピノシン	I : 5
エバーゴルド箱粒剤 エバーゴルドプラス箱粒剤 〈ウンカ類, イネトムシ, フタオビコヤカ, ニカメイチュウ, コブノメイカ〉	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り50g	は種前	1回	イミダクロプリド	ネオニコチノイド	I : 4A
		は種時(覆土前)～移植当日		クロラントラニリプロール	ジアミド	I : 28
				イソチアニル	その他(殺菌)	F : P03
				ペンフルフェン	カルボキシアミド(殺菌)	F : 7

注1：      はウンカ類に有効な殺虫成分      はチョウ目害虫に有効な殺虫成分

注2： 対象害虫はウンカ類・チョウ目のみ抜粋

注3： RACコードが同一のものは作用点が同じなので連用を避ける。

(2) 本田での対策：早植・普通植栽培

本ウイルスを媒介するヒメトビウンカの本田防除を、各地域での発生状況に合わせ地域ぐるみで行う。なお、箱施用剤を使用したほ場で本田防除を行う場合は、同一系統薬剤の連用を避ける（表4）。

表4 稲のウンカ類に登録のある主な薬剤（平成30(2018)年5月16日現在）

農薬名	希釈倍数 又は使用量	使用時期	本剤の 使用回数	成分	農薬の系統	RAC コード
<b>●粒剤</b>						
スタークル豆つぶ	250～500g/10a	収穫7日前まで	3回以内	ジノテフラン	ネオニコチノイド	I : 4A
ダントツ粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	クロチアニジン		
<b>●液剤</b>						
スタークル液剤10	1000倍	収穫7日前まで	3回以内	ジノテフラン	ネオニコチノイド	I : 4A
スタークルメイト液剤10						
ダントツ水溶剤	4000倍	収穫7日前まで	3回以内	クロチアニジン	ピレスロイド	I : 3(A)
MR. ジョーカーEW	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	シラフルオフェン		
トレボンEW	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	エトフェンプロックス		

注1： RACコードが同一のものは作用点が同じなので連用を避ける。

詳細は、農業環境指導センター（Tel 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病虫害情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi\_nousei)」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。